

乳幼児期の早い段階からの口腔ケアを啓発

ライオン

ライオンは、乳幼児期の口腔細菌叢を解析し、乳幼児期の早い段階から大人の口腔細菌叢に近づくことを明らかにした。

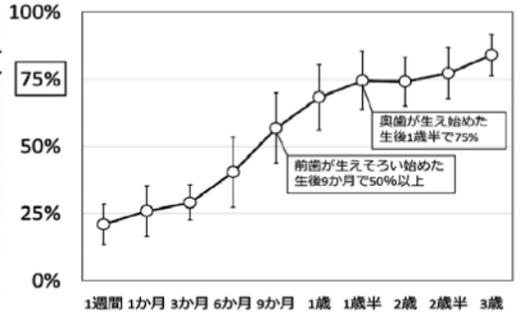
口腔疾患であるむし歯と歯周病は、いずれも歯垢などに潜む細菌が原因で起こり、歯の喪失につながる。むし歯や歯周病の予防は、フッ素による歯質強化や歯垢の除去、殺菌などの方法により行われている。一方で、近年の研究から、口腔疾患に罹患している人の口腔細菌叢は、健康な人とは異なっていることが明らかにされている。口腔細菌叢を整えることがむし歯や歯周病を予防するうえで重要なと考えられるようになった。

乳歯が生え揃う1歳半には、大人が保有する口腔細菌の約75%が存在

今回の研究では、大人の細菌叢に近づく時期を明らかにすることで、細菌叢形成の観点から口腔ケア開始の目安となる時期の明確化を試みた。これまで出生直後の口腔に存在する細菌の種類は限られており、その後年月を重ねると菌種が増加し、大人の細菌叢に近づくことが知られているが、その詳細な時期は明らかに

なっていない。そこで、大人が共通して保有している口腔細菌に着目し、これら細菌の検出率が増加する時期、乳幼児期の早い段階にはどのような種類の菌が検出されるのかを調べた。

調査開始時の父親の平均年齢は32歳(年齢幅23〜45歳)、母親の平均年齢は30.7歳(年齢幅25〜40歳)だった。子どもたちは、生後1週間、1カ月、3カ月、6カ月、9カ月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳時に計10回唾液を採取し、両親からは、子どもが3歳になった時点で父親、母親それぞれの唾液を採取し、次世代シーケンサーを用いて各サンプルから口腔細菌由来の遺伝子を読み取り、細菌叢の経時変化を解析し、解析では、大人が共通して保有する口腔細菌と

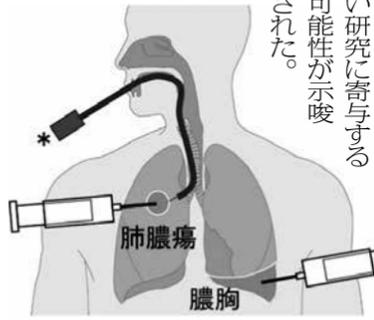


肺膿瘍・膿胸菌が口腔内細菌と由来することを証明

サンスター

ループとの共同研究で、細菌とが遺伝子的に一致することを確かめることに成功した。この研究成果をまとめた論文は2月16日に米国の細菌学会誌である「Microbiology Spectrum」にオンライン公開された。

この結果から、今まで状況証拠しかなかった口腔の細菌が肺に感染症を起し得ることの確実な証拠が示され、口腔内を清潔に保つことの重要性を確認するとともに、研究に用いた手法が幅広い研究に寄与する可能性が示唆された。



サンスターは、独立行政法人国立病院機構・姫路医療センター呼吸器内科の勝田倫子医師らのグループとの共同研究で、肺膿瘍・膿胸から採取した膿の中の細菌と口腔内の細菌が肺に感染症を起し得ることの確実な証拠が示され、口腔内を清潔に保つことの重要性を確認するとともに、研究に用いた手法が幅広い研究に寄与する可能性が示唆された。

し、乳幼児の口腔細菌叢は、共同生活を続ける両親の口腔細菌叢の影響を受けて形成されることを明らかにした。

今回の研究では、大人が共通して保有している口腔細菌に着目し、これら細菌の検出率が増加する時期、乳幼児期の早い段階にはどのような種類の菌が検出されるのかを調べた。

新たな手法は画期的だといえる。人体には口腔だけでなく腸、皮膚、膈などにも細菌叢が存在し、さらに環境の中にも土壌、建築内などにも細菌叢があり、これらと疾患との関わり、さらに予防法などについての研究がさらに進むことが期待される。

小林製薬 漢方製剤を製造する「漢方棟」の稼働開始

小林製薬は、グループ会社である富山小林製薬(富山市)の敷地内に新設した漢方製剤製造棟「漢方棟」の稼働を3月22日より開始した。漢方棟の延床面積は2151㎡、建築面積は1648㎡で、肥満症対策薬「ナイスツール」ブランドをMに委託していた生産の

はじめ漢方製剤の専用棟として、調査から打錠、充填、包装までの一貫生産体制を整えた。



一部を内製化することで、生産能力は従来比約1.4倍に増強される。「ナイスツール」はこれまで生薬原料調達や漢方エキス製造を中国にある合肥工場(合肥小林製薬有限公司)で行っていたが、漢方棟の稼働によりそれら工程も国内で一貫して行うことができる。また、今後は漢方棟内の製造工程において、AIを活用して生産性や品質の安定性向上を図っていくという。